

平成28年度第3回観光・都市魅力部会 議事概要

日時：平成28年6月28日（火）11:00～12:00

場所：咲洲庁舎44階 大会議室

出席委員：溝畑部会長、勝見専門委員、嘉名専門委員、栗本専門委員、澤田専門委員

〔開会〕

〔戦略全体像（事務局案）について〕

○資料1により、事務局から説明

〔目指すべき都市像と施策の方向性について〕

○資料2により、事務局から説明

⇒事務局説明に対する委員意見

■溝畑部会長

○観光客の受入環境の向上を目指すことを共通認識として持ちたいので、「世界最高水準の受入環境整備」という表現を使いたい。

〔自由発言〕

■勝見専門委員（追加委員提案資料 提案2）

○都市魅力を向上させ、魅力ある都市とするための基幹となる仕組みを考えようという発想から、「国際舞台芸術フェスティバル」を提案。文化芸術は都市魅力を測る尺度のひとつであり、昨年「文化芸術の振興に関する基本的な方針」が閣議決定され、文化観光立国を目指すことが明記された。

○方針では、2020年のオリンピック・パラリンピックという世界から人が集まるタイミングで各都市が魅力を発信し、住民にとっても文化を享受出来る都市にしていくことを目的に掲げるとともに、史上最大規模の文化プログラムの実施を決定。

○この文化プログラムの一環で、国際舞台芸術フェスティバルを立ち上げていくことが有用。単純にイベントとしてではなく、それを作り上げるプロセスにおいて、様々な制度や仕組みなどのストックが生まれることが狙い。

○資料ではまず、大阪の舞台芸術と日本における国際芸術フェスティバルの現状を記載。興行を中心とする事業者数等からも、相対的に見て大阪は文化・舞台芸術分野が弱い。実績のあるフェスティバルは、住民が文化を享受する権利を基本的人権の一つとし、教育権と同じ考え方で文化にアクセスできる場を作ろうという趣旨のもと、基本的に行政主導で実施している。

○国際的な視点を取り入れることでグローバルなコンテンツを住民が享受する機会を生み、文化を中心とした魅力ある街づくりをするという戦略を持つ自治体もある。ただ、現在はアート系が中心で

舞台芸術系が少ないため、大阪では舞台芸術に絞り込んだフェスティバルが良いのではということで今回提案。

○活用できるホールが大阪市外の府域全体にもあるのは強みなので、これらを文化資源として活用し、ネットワーク化。フェスティバルの運営は大阪観光局が担い、様々な行政との手続きをワンストップで受け、ノウハウを蓄積することで専門人材を育てる。こうした仕組みが出来れば、舞台芸術フェスティバルだけでなく MICE 等にも応用できるので、まずは 2020 年に焦点を合わせ官民一体となって取り組んでいければ。

■溝畑部会長（追加委員提案資料 提案 1-1~4）

○まずは「食」の振興について、大阪を食の都としてアピールするにはどうすれば良いか。これまでも食博覧会の開催などの取組みはしてきたものの、食の世界ランキングの資料によれば、食の世界的な都市に大阪はほとんど入ってこない。最近、世界の食文化で必ず出てくるヨーロッパの美食の街、例えばスペインのサン・セバスチャンや、フランスのリヨン、ベルギーのデュルビュイといった世界の水準をみながら、方向性・目標を決め戦略的に取り組むべき。

○次に、大阪城の魅力向上について。世界の観光施設をみると、遅い時間までライトアップしている、周辺の施設と連携が取れている、遅い時間帯まで日常的に賑わう文化空間が整備されているといった共通項がある。これらのことを参考に、開館時間や周遊ポイント等の点で、改善する余地があるといえる。

○最後に、大阪におけるクールジャパン・ポップカルチャーの振興について。大阪はコスプレイベントの開催数が多く、日本橋で毎年 3 月に開催されるイベントには 20 万人以上が集まり、外国人の訪問も多いという実態がある。既にある強みを活かし、比較優位な分野に育てられれば。

■澤田専門委員

○食は観光の大きなコンテンツのひとつ。大阪の食はコストパフォーマンスが高いところが強みだが、国際的な基準で勝負する視点に欠け、自己満足している印象。ポテンシャルを活かし、エンターテインメントやナイトカルチャーと連動させることで、より強い産業になる。

○大阪城を世界水準でも魅力的なコンテンツとするには、雰囲気演出や楽しみ方のディレクションが大事。経済的な視点でも、大阪城周辺のコンテンツをネットワーク化する必要がある。魅せ方の工夫が必要。

■栗本専門委員

○国際舞台芸術フェスティバルに関し、文化のコンテンツのなかで舞台芸術は労力面でも資金面でも一番大変で、行政と経済界などが協力し実現すべきもの。アートと異なり舞台芸術は同時性を有するため形は残らないが、その儚さも価値であり、官民の力を集結できるコンテンツとして育てていければ。

○大阪城について、訪問者の評価で「とてもよい」が 30%というのは、より良い活用方法の余地があるということではないか。例えば、大阪の強みを全部集結させ起爆剤になるようなイベントを行う。委員提案を踏まえると、大阪で舞台芸術フェスティバルと食というコンテンツを 2020 年にかけて展開、取組みを府域へ浸透させる。演出の仕方により、今後の展開に希望が見えるのでは。

■嘉名専門委員

○舞台芸術フェスティバル自体は賛成だが、実際の展開にあたり問題なのは収益性がないこと。舞台芸術に取り組むなら、インセンティブが付与されるような仕組みづくりが必要。大阪はエンターテインメント関連の裾野が広いので、舞台単体での儲けではなく、利益の循環が生まれる仕組みで街に波及的に効果が出れば良い。

○ライトアップには賛成。大阪城以外でも大阪を特徴づける建物をライトアップしたり、逆に夜景のきれいな場所をストック化していくことも考えられる。大阪のアイコンになるようなものをピックアップしていき、訪問者のイメージに残るような戦略をたてていくのが大事。

■勝見専門委員

○新たなフェスティバルを立ち上げるのではなく、グローバルな視点を持ち既存のフェスティバルを含め再編集する。またコンテンツを集約するだけでなく、住民参加の仕組みを構築する。大阪が文化的に魅力のある都市になるために、世界中の取組みと比較し、大阪はどうしていくのかを、まずは 2020 年を目途に具体的・戦略的に考えるべき。

○世界中で限定的に文化施設の入場料を無料にする取組みは行われているが、実施に際しては企業の協賛が必要。「多方面で協力を求めるためにも、マスメディアを活用した情報発信を行う⇒府内外からの参加者が増加する⇒文化的な魅力が向上する」という正の循環を目指す。

■澤田専門委員

○舞台芸術も食もそうだが、観光分野で大事なのはライブ感。ライトアップで言えば、人が集まる時間帯にしなければ意味がない。

〔目指すべき都市像の KPI 及び重点取組について〕

○資料 2 により、事務局から説明

⇒事務局説明に対する委員意見

■溝畑部会長

○世界の中での大阪が目指す立ち位置を、もう少し指標として具体化させ、効果測定していくことが大事。どのレベルを目指すのか、分野ごとに絞っていくべきではないか。

〔今後のスケジュールについて〕

■溝畑部会長

○7 月 20 日開催予定の大阪府市都市魅力戦略推進会議では、各部会の審議内容を報告すると共に戦

略案の全体像について審議し、案の取りまとめを行う。

○次回部会は 8 月 2 日開催予定で、戦略案に落とし込む重要取組の項目の決定、目指すべき都市像の主要指標の目標値設定などについて議論。

〔閉会〕